北杜市

水痘ワクチン予防接種を受ける前に

1　病気の説明

水痘とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスというウイルスによって引き起こされる発疹性の病気です。

空気感染、飛沫感染、接触感染により広がり、潜伏期間は感染から2週間程度と言われています。発疹の発現する前から発熱が認められ、典型的な症例では、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するとされています。一部は重症化し、近年の統計によれば、日本では水痘は年間100万人程度が発症し、4，000人程度が入院、20人程度が死亡していると推定されています。

水痘は主に小児の病気で、9歳以下での発症が90%以上を占めると言われています。小児における重症化は、熱性痙攣、肺炎、気管支炎等の合併症によるものです。成人での水痘も稀に見られますが、成人に水痘が発症した場合、水痘そのものが重症化するリスクが高いと言われています。

2　ワクチンの説明

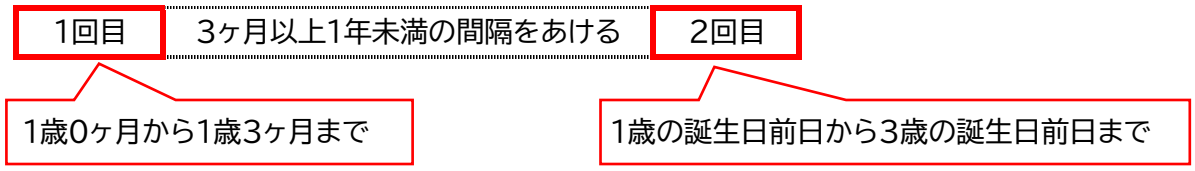
現在国内では乾燥弱毒生水痘ワクチンが用いられています。

水痘ワクチンを接種することで、1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。

●副反応

○主な副反応に、発疹、発熱、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発熱、局所症状として発赤、腫脹、硬結等があります。一過性であり、通常、数日中に消失するとされています。

○重篤な副反応として極めて稀に、アナフィラキシー様症状、急性血小板減少性紫斑病等がみられます。

●接種の標準的な時期　合計2回接種する

生後12か月（1歳）から生後36ヶ月（1歳3か月）までに1回接種します。2回目は1歳の誕生日の前日から3歳の誕生日の前日までの間に、1回目終了後3ヶ月以上の間隔をあけて接種します。